

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)		
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか		
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ		
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い		
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします		
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解		
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す		
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)		
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)		
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る		
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)		
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など		
	15	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	企業訪問	5-1,5-2		
	23	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	24	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	25	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	26	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る		
	27	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	28	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	29	期末試験(履歴書)	履歴書提出		
30	期末試験(履歴書)	履歴書提出			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	飼養管理士概論		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 ・社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 ・愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	愛玩動物飼養管理士2級教本 1, 2巻				
授業外学習の方法	予習復習、課題報告問題を解く				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	第Ⅰ編 愛玩動物飼養管理士の社会活動	第1章公益社団法人日本愛玩協会の目的・事業		
	2	第Ⅰ編 愛玩動物飼養管理士の社会活動	第2章愛玩飼養管理士		
	3	第Ⅱ編 動物愛護論Ⅰ	第1章人は動物をどのように見てきたのか		
	4	第Ⅱ編 動物愛護論Ⅰ	第2章近代的動物愛護運動の始まり		
	5	第Ⅱ編 動物愛護論Ⅰ	第3章現代の動物愛護運動との思想		
	6	第Ⅲ編 人と動物の関係学	第1章互いに影響しあう人と動物		
	7	第Ⅲ編 人と動物の関係学	第2章人を支える動物たち		
	8	第Ⅲ編 人と動物の関係学	第3章動物から子供が学ぶこと		
	9	第Ⅳ編 動物関係法令概説	第1章動物と法律との関係		
	10	第Ⅳ編 動物関係法令概説	第2章動物の愛護及び管理に関する法律		
	11	第Ⅳ編 動物関係法令概説	第3章動物の飼養及び保管に関する基準法		
	12	第Ⅳ編 動物関係法令概説	第4章家庭飼育動物に関わる関係法令		
	13	第Ⅳ編 動物関係法令概説	第5章野生動物にかかわる関係法令		
	14	期末テスト	期末テスト		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	飼養管理士概論		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 ・社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 ・愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	愛玩動物飼養管理士2級教本 1, 2巻				
授業外学習の方法	予習復習、課題報告問題を解く				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	第V編動物のからだの仕組みと働き	第1章体の基本の仕組み		
	17	第V編動物のからだの仕組みと働き	第2章栄養を取り入れる		
	18	第V編動物のからだの仕組みと働き	第3章酸素を取り入れる		
	19	第V編動物のからだの仕組みと働き	第4章老廃物の排出、異物の撃退と解毒		
	20	第V編動物のからだの仕組みと働き	第5章情報を取り入れる		
	21	第V編動物のからだの仕組みと働き	第5章情報を取り入れる		
	22	第V編動物のからだの仕組みと働き	第7章子どもを産み育てる		
	23	第VI編動物の飼養管理	第1章動物の飼養管理(総論)		
	24	第VI編動物の飼養管理	第2章犬の飼養管理 第3章猫の飼養管理		
	25	第VI編動物の飼養管理	第4章その他の哺乳類の飼養管理 第5章鳥類の飼養管理		
	26	第VII編動物のしつけ	第1章学習理論 第2章犬と猫の社会化		
	27	第VII編動物のしつけ	第3章犬のしつけの基本		
	28	第VII編動物のしつけ	第4章室内飼育猫の死受け基本		
	29	期末テスト	期末テスト		
30	振り返り	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	猫学	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	前期	対象学科学年	ペット総合科 1年生
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	45時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	猫の取り扱いについて知る。 猫の生態について知る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	教本、トリミング道具一式		
授業外学習の方法	用具の使用方の予習復習、教本内容の予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	猫のグルーミングについて知る
	2	猫の十戒	猫の十戒について理解する
	3	猫の歴史	猫の歴史(世界)
	4	猫の歴史	猫の歴史(日本)
	5	猫の室内飼育	フード、飲み水
	6	猫の室内飼育	猫のテリトリー、トイレ、しつけ
	7	猫の身体的特徴	犬と猫の違い
	8	猫の身体的特徴	猫の妊娠と出産
	9	猫のからだの名称	顔の作り
	10	猫のからだの名称	体のづくり
	11	キャットショー	審査クラス
	12	キャットショー	審査の流れ
	13	期末試験	期末試験
	14	振り返り	振り返り
	15	振り返り	振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	犬学 I		指導担当者名	坂元幸江	
実務経験	有	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の基礎知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	めざせ早期発見！わかる犬の病気				
授業外学習の方法	病気について予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	第1トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気	1 全身チェック		
	2	第1トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気	2 人や動物にうつる恐れのある病気		
	3	第2章早期発見するための部位別病気の知識	1 皮膚の病気		
	4	第2章早期発見するための部位別病気の知識	2 耳の病気		
	5	第2章早期発見するための部位別病気の知識	3 目の病気		
	6	第2章早期発見するための部位別病気の知識	4 鼻と口の病気		
	7	第2章早期発見するための部位別病気の知識	5 おしり・お腹周りの病気		
	8	第2章早期発見するための部位別病気の知識	6 足先・膝・腰まわりの病気		
	9	第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識	1 シャンプーの基礎知識		
	10	第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識	2 トリミングサロン・ペットショップ内の正しい清掃・消毒方法		
	11	第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識	3 ワクチンの基礎知識		
	12	前期期末試験対策	復習		
	13	前期期末試験対策	復習		
	14	前期期末試験	前期期末試験		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	犬学 I		指導担当者名	坂元幸江	
実務経験	有	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の基礎知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	めざせ早期発見！わかる犬の病気				
授業外学習の方法	病気について予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	第4章飼い主さんへの病気説明	アレルギー、外耳炎、角膜炎		
	17	第4章飼い主さんへの病気説明	肛門嚢炎、股関節形成不全、子宮蓄膿症、		
	18	第4章飼い主さんへの病気説明	歯周病、糖尿病、		
	19	第4章飼い主さんへの病気説明	白内障、緑内障、		
	20	第4章飼い主さんへの病気説明	結膜炎		
	21	第4章飼い主さんへの病気説明	マダニ、ノミについて		
	22	第5章トリミングトラブル	1 爪切りで出血させてしまった		
	23	第5章トリミングトラブル	2 目がしょぼしょぼする		
	24	第5章トリミングトラブル	3 フケが多くなった		
	25	第5章トリミングトラブル	4 嘔吐、下痢		
	26	第5章トリミングトラブル	5 血尿がでてしまった		
	27	第5章トリミングトラブル	6 片足立ちになっている、足腰が立たない		
	28	第5章トリミングトラブル	7 足先をなめている 8いぼや皮膚を切ってしまった		
	29	後期期末テスト	後期期末テスト		
30	一年間の振り返り②	活動での反省点をまとめ報告する。次担当班に引き継ぎ、活動の計画をたてる。			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	ペット美容学			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> スタンダードの理解と、各犬体各種のカットング、クリッピングの手順、形、ラインなどを学ぶ。 実社会で使用する最低限度の用語等を習得する。モデル犬受付業務の流れ。</p> <p><到達目標> カットスタイル習得。一人で2～3時間以内で仕上げまでトリミング実習での実践できるようにする。モデル犬受付業務の習得。 バリカン使用の習得。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	日本ペットビジネススクール協会 ペット美容学 インターズー プロフェッショナルワークブック				
授業外学習の方法	ペット美容学教科書の予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介		
	2	犬体用語・毛色用語・被毛用語・ペット美容用語	犬体各部の名所		
	3	GM道具の手入れについて	道具の取り扱い		
	4	ペット美容用語	用語解説		
	5	トリミング用具・ハサミ	ハサミの手入れについて		
	6	ハサミの基本技法	ハサミの持ち方		
	7	ブラシ、コーム、クリッパー	取り扱い		
	8	爪切り、ドライヤー、テーブル	使い方		
	9	リボンの作り方	実践で使える手作りリボンの解説		
	10	爪の手入れ	犬の爪切り		
	11	パッド、目、歯の手入れ	パッドの手入れ、目の手入れ、歯の手入れ		
	12	耳の手入れ 肛門の手入れ	耳の手入れ 耳の中の毛を抜く 耳の汚れをふき取る 肛門囊の絞り方		
	13	シャンピング ドライング	シャンピングの必要性 シャンピングの目的 シャンピングの前処理 シャンピングの弊害と対策		
	14	まとめ	期末試験		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	ペット美容学	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> スタンダードの理解と、各犬体各種のカット、クリッピングの手順、形、ラインなどを学ぶ。実社会で使用する最低限度の用語等を習得する。モデル犬受付業務の流れ。</p> <p><到達目標> カットスタイル習得。一人で2～3時間以内で仕上げまでトリミング実習での実践できるようにする。モデル犬受付業務の習得。バリカン使用の習得。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点:優)、B(70点～79点:良)、C(60点～69点:可)、D(0点～59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	日本ペットビジネススクール協会 ペット美容学 インターズー プロフェッショナルワークブック		
授業外学習の方法	ペット美容学教科書の予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	16	リンシング	リンシングの目的 リンス剤の種類
	17	作業困難な犬柄の対処	安全な保定のしかた
	18	マルチーズのグルーミング	シザー仕上げ クリッパー仕上げの方法
	19	ヨークシャテリアのグルーミング	ペットトリムとショークリップの違い
	20	シーズーのグルーミング	ペットトリムとショークリップの違い
	21	ポメラニアン of グルーミング	ショークリップ 柴カット について
	22	アメリカンコッカースパニエルのペットトリム	クリッパーの使い方
	23	アメリカンコッカースパニエルのショートトリム	クリッパーとスキバサミの取り扱い
	24	プードルのペットクリップ	ラムクリップ スイートハート ダッチ ハリウッド マイアミ
	25	プードルのショークリップ	パピークリップ コンチネンタル イングリッシュサドルクリップ
	26	プードル各部の仕上げ	ボンボンの作り方、スウェル、プレスレッド、ローゼット、レッグパリエーション
	27	プードルの理想体型	ドワーフタイプとハイオンタイプの違い
	28	トイプードル(ラムクリップ)	作業工程と注意点
	29	まとめ	期末試験
30	一年間の振り返り②	活動での反省点をまとめ報告する。次担当班に引継ぎ、活動の計画をたてる。	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き		
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字		
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句		
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史		
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理		
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済		
	7	小テスト	中学レベル小テスト		
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2		
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現		
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算		
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率		
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学		
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学		
	14	期末テスト	一般常識総ざらい		
	15	期末テスト	一般常識総ざらい		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	25	個別指導1	書類添削、面接指導		
	26	個別指導2	書類添削、面接指導		
	27	個別指導3	書類添削、面接指導		
	28	個別指導4	書類添削、面接指導		
	29	個別指導5	書類添削、面接指導		
30	個別指導5	書類添削、面接指導			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	犬学Ⅱ		指導担当者名	坂元幸江	
実務経験	有	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の応用知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	看護学教本				
授業外学習の方法	病気について予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	内科学	救急医療		
	2	内科学	中毒		
	3	内科学	出血		
	4	内科学	日射病・熱中症		
	5	内科学	ショック		
	6	内科学	輸液治療(輸液、採血時の準備と保定)		
	7	臨床検査学	血液検査		
	8	臨床検査学	ヘマトクリット		
	9	臨床検査学	血液塗抹標本		
	10	臨床検査学	顕微鏡検査		
	11	臨床検査学	尿検査、糞便検査		
	12	前期期末試験対策	復習		
	13	前期期末試験対策	復習		
	14	前期期末試験	前期期末試験		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	犬学Ⅱ		指導担当者名	坂元幸江	
実務経験	有	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の応用知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	看護学教本				
授業外学習の方法	病気について予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	介護学	犬の老化		
	17	介護学	ペットの高齢化		
	18	介護学	高齢犬介護の心構え		
	19	介護学	高齢犬の病気		
	20	介護学	高齢犬の食餌管理		
	21	介護学	食餌の介助		
	22	介護学	犬の床ずれ		
	23	介護学	犬の痴呆症		
	24	介護学	排泄の介助		
	25	介護学	散歩の効用		
	26	介護学	介護と臭い対策		
	27	介護学	介護士と医療行為		
	28	介護学	介護動物とマッサージ、飼育者と介護士		
	29	後期期末テスト	後期期末テスト		
30	一年間の振り返り	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	ペット災害危機管理士論		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身に付ける。 愛玩動物を扱う者として、防災の知識を身につけ普及啓発を行えるようにする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ペット災害危機管理士4級テキスト				
授業外学習の方法	テキストの予習・復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	ペット災害危機管理士とは	ペット災害危機管理士の必要性		
	2	国や行政の取り組み	国、地方公共団体の体制		
	3	各種災害対策を知る	平常時からの対策		
	4	飼い主として災害に向けての準備	冷静になることの大事さ		
	5	避難準備に向けて	避難の種類		
	6	ペットの基礎バイタルサイン	バイタルサインとは		
	7	日本で起こる災害	近年の自然災害		
	8	同行避難	ペット同行避難		
	9	避難所	避難場所と避難所		
	10	災害時の情報	情報収集の方法		
	11	避難事例	避難での事例		
	12	人とペットが注意する疾病	災害救助法		
	13	前期期末試験対策	復習		
	14	前期期末試験	前期期末試験		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	ペット災害危機管理士論		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身に付ける。 愛玩動物を扱う者として、防災の知識を身につけ普及啓発を行えるようにする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ペット災害危機管理士4級テキスト				
授業外学習の方法	テキストの予習・復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	同行避難を周知するために	グループに分かれて周知内容や方法を考える		
	17	同行避難を周知するために	グループに分かれて周知内容や方法を考える		
	18	同行避難を周知するために	グループに分かれて周知内容や方法を考える		
	19	同行避難を周知するために	グループに分かれて周知内容や方法を考える		
	20	同行避難を周知するために	グループに分かれて周知内容や方法を考える		
	21	同行避難を周知するために	グループに分かれて周知内容や方法を考える		
	22	避難訓練を考える	実習中の避難を想定する		
	23	避難訓練を考える	実習中の避難を想定する		
	24	避難訓練を考える	実習中の避難を想定する		
	25	避難訓練を考える	実習中の避難を想定する		
	26	避難訓練を考える	実習中の避難を想定する		
	27	周知するためのPOP制作	見やすいPOPを考える		
	28	周知するためのPOP制作	見やすいPOPを考える		
	29	後期期末テスト	後期期末テスト		
30	一年間の振り返り	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
	14	期末試験	期末試験		
	15	期末試験	期末試験		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	28	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
	29	期末試験	期末試験		
30	期末試験	期末試験			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	PCの基本的な操作を学び、Word・Excelを使うことができる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	Word2021クイックマスター 基本編 Excel2021クイックマスター 基本編				
授業外学習の方法	自宅での教材復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ クイックマスターをPCに取り込む		
	2	Word基礎①	wordの基本		
	3	Word基礎②	文字の入力と編集の基本操作		
	4	Word基礎③	文書の編集		
	5	Word基礎④	文書の印刷		
	6	実践練習1	犬の解説文を作成する		
	7	Word基礎⑤	文書の作成		
	8	Word基礎⑥	表を使った文書の作成		
	9	Word基礎⑦	図形や画像を使った文書の作成		
	10	実践練習2-1	画像を使って広告を作る		
	11	実践練習2-2	画像を使って広告を作る		
	12	演習問題1	テキストを使って演習		
	13	期末試験	期末試験		
	14	振り返り	前期振り返り		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	PCの基本的な操作を学び、Word・Excelを使うことができる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	Word2021クイックマスター 基本編 Excel2021クイックマスター 基本編				
授業外学習の方法	自宅での教材復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	前期復習、Excel導入	前期の復習・確認と今後の流れ確認 クイックマスターをPCに取り込む		
	17	Excel基礎①	chapter1		
	18	Excel基礎②	chapter2		
	19	Excel基礎③	chapter3		
	20	Excel基礎④	chapter4		
	21	実践練習①	顧客リストを作成		
	22	Excel基礎⑤	chapter5		
	23	Excel基礎⑥	chapter6		
	24	Excel基礎⑦	chapter7		
	25	実践練習②-1	売上管理をする		
	26	実践練習②-2	売上管理をする		
	27	演習問題1	テキストを使って演習		
	28	期末試験	期末テスト		
	29	振り返り	後期振り返り		
30	振り返り	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	犬猫演習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	後期	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	150時間	単位数	10単位	週時間数	10時間
学習到達目標	犬の基本的な扱いやトレーニングの技術を総合的に養う 猫の取り扱いについて知る。 猫の生態について知る。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	教本、トリミング道具一式				
授業外学習の方法	用具の使用法の予習復習、教本内容の予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	シミュレーション① 前期復習	しつけ教室を想定したお客様対応の練習 猫の取り扱いについて復習		
	2	シミュレーション② キャットグルーミングについて	しつけ教室を想定したお客様対応の練習 用具の扱い方、猫の扱い方について		
	3	シミュレーション③ モデル猫実習	犬をハンドリングした状態でお客様対応の練習 モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	4	ドッグイベントについて モデル猫実習	愛犬家が楽しめるイベントについて調べる モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	5	ドッグイベントについて計画① モデル猫実習	イベントを計画する モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	6	ドッグイベントについて計画② モデル猫実習	イベントを計画する モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	7	ドッグイベント実施①	学科内でイベント実施 モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	8	ドッグイベント実施② モデル猫実習	学科内でイベント実施 モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	9	ドッグイベント実施③ モデル猫実習	学外からお客様を招いてイベント実施 モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	10	ドッグイベント実施④ モデル猫実習	学外からお客様を招いてイベント実施 モデル猫のグルーミング(ペアで実施)		
	11	イベントの振り返り① モデル猫実習	反省点をまとめブラッシュアップ 1人でグルーミングをする		
	12	イベントの振り返り② モデル猫実習	反省点をまとめブラッシュアップ 1人でグルーミングをする		
	13	期末試験	期末試験		
	14	振り返り	総括		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング演習		指導担当者名	金成舞	
実務経験	有	ドッグトレーナーとして犬のしつけ教室・ドッグイベント企画運営・ドッグトレーナー養成事業に5年以上従事			
開講時期	前期	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	45時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p><科目主旨> 犬の基本的な扱いやトレーニングの技術を総合的に養う</p> <p><到達目標> 犬のトレーニング方法を理解し、自ら目標を立てて実行できる</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	一般社団法人 全日本動物専門教育協会 ドッグトレーニング				
授業外学習の方法	教科書や授業動画を使って復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	イヌってどんな生き物か①	歴史的背景、気持ちの表現方法について		
	2	イヌってどんな生き物か②	ドミナンスコントロールについて		
	3	学習とは何か?	学習理論(古典的条件付け、オペラント条件付け)		
	4	学習方法①	犬の社会化		
	5	学習方法②	慣らし方について		
	6	問題行動①	「吠え」に関する問題行動の原因と対処方法を知る		
	7	問題行動②	「噛む」に関する問題行動の原因と対処方法を知る		
	8	問題行動③	「散歩中の問題」に関する問題行動の原因と対処方法を知る		
	9	問題行動④	「その他の問題行動」に関する問題行動の原因と対処方法を知る		
	10	問題行動について調べる①	書籍やインターネットから調べてまとめる		
	11	問題行動について調べる②	書籍やインターネットから調べてまとめる		
	12	問題行動について調べる③	書籍やインターネットから調べてまとめる		
	13	期末試験	期末試験		
	14	振り返り	振り返り		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	サービス接客演習		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	前期	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	基本的な接客の知識の習得。接客時の動作習得。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	サービス接客検定1級・2級・3級				
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習		
	2	確認テスト	テキストP194-208		
	3	テスト振り返り			
	4	サービススタッフの資質①	テキストP16-42		
	5	サービススタッフの資質②			
	6	専門知識①	テキストP44-82		
	7	専門知識②			
	8	一般知識①	テキストP83-110		
	9	一般知識②			
	10	一般知識③	テキストP112-116		
	11	一般知識④			
	12	対人技能①	テキストP118-144		
	13	期末テスト			
	14	振り返り			
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	AI演習		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	後期	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	基本的なAIの知識の習得。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	配布レジュメ				
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	AIとは何か	AIの基本的な意味、身近なAI活用例、生成AIとは何かを学ぶ		
	2	AIを使う上でのルールと注意点	個人情報、著作権、情報の正確性、学校・仕事での使い方のマナー		
	3	生成AIの基本操作	ChatGPTなどの基本的な使い方、質問の仕方、回答の確認方法		
	4	よい指示文の作り方①	目的・条件・対象者を入れたプロンプトの基本を学ぶ		
	5	よい指示文の作り方②	具体例を入れる、文字数や形式を指定する、修正依頼をする練習		
	6	文章作成への活用	挨拶文、案内文、説明文、SNS投稿文などをAIで作成する		
	7	文章の改善・要約への活用	読みやすくする、やわらかくする、短くまとめる、誤字を直す		
	8	情報収集と調べ学習への活用	AIの回答をうのみにしない方法、検索との使い分け、出典確認		
	9	アイデア出しへの活用	イベント企画、授業企画、商品名、キャッチコピーなどを考える		
	10	表やリスト作成への活用	比較表、チェックリスト、スケジュール表、振り返りシートの作成		
	11	プレゼン資料作成への活用	スライド構成、発表原稿、見出し、要点整理の作成		
	12	画像生成AIの基礎	画像生成AIの仕組み、指示文の作り方、利用時の注意点		
	13	AIを使った課題制作①	自分のテーマを決め、AIを活用して文章・資料・企画案を作成する		
	14	期末試験	期末試験		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
	14	期末試験	期末試験		
	15	期末試験	期末試験		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	28	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
	29	期末試験	期末試験		
30	期末試験	期末試験			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	犬猫演習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	360時間	単位数	24単位	週時間数	12時間
学習到達目標	<p><科目主旨> 犬の基本的な扱いやトレーニングの技術を総合的に養う 猫の取り扱いについて知る。 猫の生態について知る。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	<p>一般社団法人 全日本動物専門教育協会 ドッグトレーニング 一般社団法人 キャットグルーマー協会 教本</p>				
授業外学習の方法	教科書や授業動画を使って復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の説明		
	2	実習犬のレベルをあげる① キャットグルーミングについて	実習犬の学習状況から課題を見つけて強化する 用具の扱い方、猫の扱い方について		
	3	実習犬のレベルをあげる② モデル猫実習	実習犬の学習状況から課題を見つけて強化する モデル猫のグルーミング		
	4	実習犬のレベルをあげる③ モデル猫実習	実習犬の学習状況から課題を見つけて強化する モデル猫のグルーミング		
	5	モチベーションとは何か モデル猫実習	オヤツ以外のモチベーションを考える モデル猫のグルーミング		
	6	犬にとっての妨害刺激とは何か モデル猫実習	妨害トレーニング モデル猫のグルーミング		
	7	先読みを防ぐ モデル猫実習	パターンを変えるトレーニング モデル猫のグルーミング		
	8	特殊トレーニング モデル猫実習	妨害トレーニングをしながらパターンを変えるトレーニングを同時実施 モデル猫のグルーミング		
	9	個別練習① モデル猫実習	個別練習の目標設定 モデル猫のグルーミング		
	10	個別練習② モデル猫実習	個別練習の目標達成に向けた強化期間 モデル猫のグルーミング		
	11	個別練習③ モデル猫実習	個別練習の目標達成に向けた強化期間 モデル猫のグルーミング		
	12	個別練習④ モデル猫実習	個別練習の目標達成に向けた強化期間 モデル猫のグルーミング		
	13	期末試験	期末試験		
	14	振り返り①	振り返り		
	15	振り返り②	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	犬猫演習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	360時間	単位数	24単位	週時間数	12時間
学習到達目標	<p><科目主旨> 犬の基本的な扱いやトレーニングの技術を総合的に養う 猫の取り扱いについて知る。 猫の生態について知る。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	<p>一般社団法人 全日本動物専門教育協会 ドッグトレーニング 一般社団法人 キャットグルーマー協会 教本</p>				
授業外学習の方法	教科書や授業動画を使って復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	行進中の指示① モデル猫実習	ノーリードで人は歩きながらスワレをさせる モデル猫のグルーミング		
	17	行進中の指示② モデル猫実習	ノーリードで人は歩きながらフセをさせる モデル猫のグルーミング		
	18	遠隔① モデル猫実習	遠隔でのマテ、コイ モデル猫のグルーミング		
	19	遠隔① モデル猫実習	遠隔でのスワレ、フセ モデル猫のグルーミング		
	20	総復習① モデル猫実習	リード付き→ノーリード→遠隔の流れを実施 モデル猫のグルーミング		
	21	総復習② モデル猫実習	リード付き→ノーリード→遠隔の流れを実施 モデル猫のグルーミング		
	22	ドッグスポーツ① モデル猫実習	アジリティ、ドッグダンスの実施 モデル猫のグルーミング		
	23	ドッグスポーツ② モデル猫実習	アジリティ、ドッグダンスの実施 モデル猫のグルーミング		
	24	個別練習① モデル猫実習	個別練習の目標設定 モデル猫のグルーミング		
	25	個別練習② モデル猫実習	個別練習の目標達成に向けた強化期間 モデル猫のグルーミング		
	26	個別練習③ モデル猫実習	個別練習の目標達成に向けた強化期間 モデル猫のグルーミング		
	27	個別練習④ モデル猫実習	個別練習の目標達成に向けた強化期間 モデル猫のグルーミング		
	28	期末試験	期末試験		
	29	振り返り①	振り返り		
30	振り返り②	振り返り			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	総合演習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>就職に向けて実践的な知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>①受付係: トリミング実習の際、受付をし、お客様からのオーダーを聞いたり、犬を預かったりする。</p> <p>②会計係: サロン実習の際、お客様から料金をお預かりし、領収書を渡す。また、その日の売り上げの確認と、20日×で一か月分の売り上げを事務局に渡す。</p> <p>③消耗品管理、掃除係: ペット総合科で使用している用品の在庫をチェックし、補充したいものを担任に報告する。また、教室、実習室のごみ捨てを担当する。</p> <p>④SNS/ 掲示板係: 実習の様子やカットの仕上がりの写真など、ペット総合科インスタグラムに投稿する。また、教室内と廊下の掲示板にペット総合科の事に関する内容の掲示物(新聞やペット自慢等)を作成する。</p> <p>⑤オープンキャンパス係: オープンキャンパスの学生スタッフとして、来校した学生や保護者の対応、また、体験実習での実演をする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点: 優)、B(70点~79点: 良)、C(60点~69点: 可)、D(0点~59点: 不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	筆記用具、PC				
授業外学習の方法	グループ内で共有したい情報や、校外へ発信したい情報を考える。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	一年間の授業の流れや目的の理解 グループ編成(5グループ)		
	2	各班での活動	1, 2年生合同の5つのグループに分かれ、各自担当の係を受け持つ。1~2か月ごとのローテーションで係を変えていく。		
	3	各班での活動1-1	○初回なので改善ポイント、よくできたポイント等随時まとめさせる。		
	4	各班での活動1-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。		
	5	各班での活動1-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。		
	6	特別授業(外部企業による講演)	トリミングサロンを経営している方による、現在のペット業界についての講演		
	7	報告会1、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画を立てる。		
	8	各班での活動2-1	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。		
	9	各班での活動2-2	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。		
	10	各班での活動2-3	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。		
	11	報告会2、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。また、前期の班としての反省をする。		
	12	各班での活動3-1	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。		
	13	各班での活動3-2	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。		
	14	報告会3(前期振り返り)、引継ぎ、準備	活動での反省点をまとめ報告する。次担当班に引継ぎ、活動の計画をたてる。		
	15	振り返り	振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	総合演習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>就職に向けて実践的な知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>①受付係: トリミング実習の際、受付をし、お客様からのオーダーを聞いたり、犬を預かったりする。</p> <p>②会計係: サロン実習の際、お客様から料金をお預かりし、領収書を渡す。また、その日の売り上げの確認と、20日×で一か月分の売り上げを事務局に渡す。</p> <p>③消耗品管理、掃除係: ペット総合科で使用している用品の在庫をチェックし、補充したいものを担任に報告する。また、教室、実習室のごみ捨てを担当する。</p> <p>④SNS/掲示板係: 実習の様子やカットの仕上りの写真など、ペット総合科インスタグラムに投稿する。また、教室内と廊下の掲示板にペット総合科の事に関する内容の掲示物(新聞やペット自慢等)を作成する。</p> <p>⑤オープンキャンパス係: オープンキャンパスの学生スタッフとして、来校した学生や保護者の対応、また、体験実習での実演をする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	筆記用具、PC				
授業外学習の方法	グループ内で共有したい情報や、校外へ発信したい情報を考える。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	前期振り返りと後期の目標設定	各班ごとに前期の振り返りをし、後期の活動の目標を立てる		
	17	各班での活動4-1	1, 2年生合同の5つのグループに分かれ、各自担当の係を受け持つ。1~2か月ごとのローテーションで係を変えていく。		
	18	各班での活動4-2	○初回なので改善ポイント、よくできたポイント等随時まとめさせる。		
	19	各班での活動4-3	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。		
	20	報告会4、引継ぎ、準備	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。		
	21	各班での活動5-1	トリミングサロンを経営している方による、現在のペット業界についての講演		
	22	各班での活動5-2	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引き継ぎ、次回からの活動の計画を立てる。		
	23	各班での活動5-3	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。		
	24	報告会5、引継ぎ、準備	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。		
	25	各班での活動6-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。		
	26	各班での活動6-2	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引き継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。また、前期の班としての反省をする。		
	27	各班での活動6-3	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。		
	28	報告会6(後期振り返り)、引継ぎ、準備	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。		
	29	一年間の振り返り①	活動での反省点をまとめ報告する。次担当班に引き継ぎ、活動の計画をたてる。		
30	一年間の振り返り②	活動での反省点をまとめ報告する。次担当班に引き継ぎ、活動の計画をたてる。			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	トリミング実習 I		指導担当者名	後藤しのぶ	
実務経験	有	ペット関連施設で10年以上の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	180時間	単位数	6単位	週時間数	6時間
学習到達目標	<p>ドッグマネキンのカットを一人で2時間以内で仕上げることが出来る。</p> <p>トリミング作業について基礎知識を身につける。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	トリミング道具一式				
授業外学習の方法	ドッグマネキンのブラッシング、用具の使用方法的予習復習、トリミングの流れの予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	グルーミングの心構え		
	2	実習用具の使用練習	シザーの扱い方		
	3	実習用具の使用練習	シザーの扱い方②		
	4	実習用具の使用練習	クリッパーの扱い方		
	5	実習用具の使用練習	爪切り、耳掃除の仕方		
	6	実習用具の使用練習	作業の流れの確認		
	7	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット①		
	8	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット②		
	9	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット③		
	10	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット④		
	11	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット⑤		
	12	期末試験	ドッグマネキンの2時間カット		
	13	期末試験	振り返り、カット修正		
	14	振り返り①	振り返り、カット修正		
	15	振り返り②	振り返り、カット修正		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	トリミング実習 I		指導担当者名	後藤しのぶ	
実務経験	有	ペット関連施設で10年以上の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 1年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	180時間	単位数	6単位	週時間数	6時間
学習到達目標	<p>ドッグマネキンのカットを一人で2時間以内で仕上げることが出来る。</p> <p>トリミング作業について基礎知識を身につける。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	トリミング道具一式				
授業外学習の方法	ドッグマネキンのブラッシング、用具の使用方法の予習復習、トリミングの流れの予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	前期復習	トリミングの流れの復習		
	17	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット①		
	18	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット②		
	19	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット③		
	20	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット④		
	21	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット⑤		
	22	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット⑥		
	23	モデル犬実習	トイプードルのモデル犬カット		
	24	モデル犬実習	チワワのモデル犬カット		
	25	モデル犬実習	シーズーのモデル犬カット		
	26	モデル犬実習	ポメラニアンモデル犬カット		
	27	期末試験	ドッグマネキンの1時間30分カット		
	28	振り返り	振り返り、カット修正		
	29	振り返り①	振り返り、カット修正		
30	振り返り②	振り返り、カット修正			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作実習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	・1年生:1年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	トリミング実習Ⅱ		指導担当者名	後藤しのぶ	
実務経験	有	ペット関連施設で10年以上の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	180時間	単位数	6単位	週時間数	6時間
学習到達目標	<p>ドッグマネキンのカットを一人で2時間以内で仕上げることが出来る。</p> <p>トリミング作業について基礎知識を身につける。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	トリミング道具一式				
授業外学習の方法	ドッグマネキンのブラッシング、用具の使用方法の予習復習、トリミングの流れの予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	グルーミングの心構え		
	2	実習用具の使用練習	シザーの扱い方		
	3	実習用具の使用練習	シザーの扱い方②		
	4	実習用具の使用練習	クリッパーの扱い方		
	5	実習用具の使用練習	爪切り、耳掃除の仕方		
	6	実習用具の使用練習	作業の流れの確認		
	7	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット①		
	8	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット②		
	9	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット③		
	10	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット④		
	11	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット⑤		
	12	期末試験	ドッグマネキンの2時間カット		
	13	期末試験	振り返り、カット修正		
	14	振り返り①	振り返り、カット修正		
	15	振り返り②	振り返り、カット修正		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	トリミング実習Ⅱ		指導担当者名	後藤しのぶ	
実務経験	有	ペット関連施設で10年以上の実務経験がある			
開講時期	通年	対象学科学年	ペット総合科 2年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	180時間	単位数	6単位	週時間数	6時間
学習到達目標	ドッグマネキンのカットを一人で2時間以内で仕上げることが出来る。 トリミング作業について基礎知識を身につける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	トリミング道具一式				
授業外学習の方法	ドッグマネキンのブラッシング、用具の使用方法の予習復習、トリミングの流れの予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	16	前期復習	トリミングの流れの復習		
	17	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット①		
	18	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット②		
	19	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット③		
	20	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット④		
	21	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット⑤		
	22	ドッグマネキン実習	ドッグマネキンのカット⑥		
	23	モデル犬実習	トイプードルのモデル犬カット		
	24	モデル犬実習	チワワのモデル犬カット		
	25	モデル犬実習	シーズーのモデル犬カット		
	26	モデル犬実習	ポメラニアンモデル犬カット		
	27	期末試験	ドッグマネキンの1時間30分カット		
	28	振り返り	振り返り、カット修正		
	29	振り返り①	振り返り、カット修正		
30	振り返り②	振り返り、カット修正			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作実習	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	・卒業生:2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			